

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4292400027		
法人名	社会福祉法人 真和会		
事業所名	グループホームあしたば		
所在地	長崎県雲仙市瑞穂町伊福甲675・669 (電話) 0957-77-2120		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	2007年11月16日	評価確定日	2008年1月23日

【情報提供票より】 (19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年	10月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 9.4人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1階建ての	1～1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	5,100+実費 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	- 円	昼食 - 円
	夕食	- 円	おやつ - 円
	または1日当たり		830 円

(4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	—名		
年齢	平均 84.5歳	最低	71歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛野記念病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、自然豊かな小高い場所に位置し、2つのユニットが向かい合って建てられています。ホーム内は、清潔感があり、きれいな花々が飾られ、装飾品にも手作りの暖かさが感じられます。ホームの運営には、「楽しく自分らしく生活してほしい」といった運営者側の思いが反映されていることが、様々な支援の場面から感じ取れます。管理者や計画作成担当者を中心に、評価を活かした改善活動が行われており、今後にも期待ができます。経営母体である社会福祉法人との連携が図られ、安全面などにおいても併設の施設との協力体制が整っています。個別対応を重要視したホームであることは、具体的できめ細かに作成された介護計画書からもうかがい知ることができます。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価結果を踏まえた改善に積極的に取り組まれています。 改善計画シートにより課題やその優先順位を明確にされ、取り組まれた上で評価も行われています。居室等の温度・湿度の管理や意見箱の設置など、具体的な改善事例もあり、今後の改善活動にも期待できます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義はスタッフに浸透しています。 自己評価は管理者を含むスタッフ全員で取り組まれ、評価制度の意義がスタッフ全体に浸透しています。改善に向けた姿勢から今後の改善活動にも期待できます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 積極的に参加を促す取り組みが求められます。 開催頻度は二ヵ月に一回と特に問題ない状況ですが、会議構成メンバーの見直しが必要です。自治会や老人会を含めた地域の方々への参加を促進し、より充実した会議内容となるよう、今後の積極的な取り組みを期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族の意見の聴取に努め、運営に反映されています。 意見箱の設置など、ご家族の意見を聴取するよう努められており、ご家族の意見をホームの運営に反映した実績もあります。今後も運営推進会議を含めた継続的な取り組みが期待できます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流については今後の課題といえます。 祭りや運動会などへの参加は見受けられますが、スタッフが地域の方々と協働するような積極的な取り組みには至っておりません。立地的に困難な面もありますが、自治会への加入などを含めた積極的な取り組みを展開し、より地域に密着したホームを目指す必要があります。

(別紙2-2)

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で普通に暮らし…」といった文言から始まるホーム独自の理念を掲げ、実践に向けた取り組みが展開されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示され、唱和やミーティングを活用した周知が行われています。スタッフにも十分浸透していることをヒアリングやご利用者への接し方で確認できます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや運動会、物産展などへ参加されており、中高生のボランティア受入の実績もあります。地域とのかかわりは母体施設と総合的な取り組みが見受けられます。しかし、ホームの職員が地域と協働する場面など積極的な取り組みは見受けられません。	○	地域との関わりについては、その目的を明確にしたうえで、積極的な活動や工夫が必要です。 自治会や老人会との係わりを含めたホーム独自の積極的な取り組みが求められます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画シートを活用し前回の外部評価の結果に基づく改善活動が行われています。自己評価についても全スタッフで取り組まれており、評価制度の意義についてもスタッフに浸透しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月に1回開催されています。ホームの誕生会と併せて開催を企画されるなど、ホームを知っていただく工夫が見受けられます。	○	今後は、老人会や自治会など地域の方の参加についても積極的に呼びかけを行うことが求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とのかかわりについては、運営推進会議に止まっており、具体的な事例等は確認できません。	○	毎月、パンフレットや広報誌を届けるなど、常に接触する取り組みから始められては如何でしょうか。運営推進会議を活かした市役所との連携強化についても、継続して取り組まれることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の状況報告は面会時に、状況の変化については電話にて報告、相談が行われているとのことです。また、毎月の請求書にホーム便りや手紙などを同封されています。金銭管理についても報告されていますが、その確認状況についての記録は確認できません。	○	金銭管理は、説明同意の痕跡が残るようご家族等の署名などを台帳等に頂くことが望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置されており、ご家族の訪問時に意見の聴取を心掛けているとのことです。ご家族の意見から、スタッフの呼称について検討された事例なども聴取できました。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームスタッフの人事異動は殆ど無く、異動が生じた場合は、ご利用者及びご家族に配慮した報告が行われているとのことです。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフの研修受講回数は多く、プライベートで受講した研修についても自主的に研修報告書を提出するなど、職場全体で質の向上を図る風土が感じられます。また、研修報告書や伝達研修による共有の仕組みが確認できます。しかし、研修計画については確認できません。</p>	○	<p>今後は、スタッフ育成の面から、スタッフ一人ひとりの研修履歴等を把握した上での教育計画作成についてご検討下さい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の連絡会に一部のスタッフが参加されているようですが、その他の取り組みは確認できません。</p>	○	<p>市の連絡会への全スタッフのかかわりや、グループホーム間の相互見学など積極的な取り組みにより、質の向上やスタッフのスキルアップにつなげる活動が求められます。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にはご本人やご家族の状況に応じて訪問し、見学も実施されています。入居直後は家族との連絡を密にし、馴染まれるまで相談しながら対応されています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>スタッフは、ご利用者と共に楽しく過ごせる関係作りを目指されており、ご利用者からの労いの言葉により励まされることも多いとのことでした。スタッフ自身も出勤することが楽しいと話され、スタッフの長期療養からの復帰時に、ご利用者が一緒に泣いてくださった事例なども聴取できました。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声かけはもちろん、ご利用者のしぐさからも意向の把握に努められています。ご利用者やご家族、親戚や後見人などから把握したことは、シートにまとめられ共有化や支援に活かされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の意見、日々聴取したご利用者の情報及びスタッフの気付きなどについて、全スタッフで検討され、分かり易く、きめ細かな介護計画が策定されています。また、ご家族による介護計画書の同意についても確認できます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については毎月評価され、原則として3ヵ月に一度、見直しが行われています。随時の見直しについても必要に応じて実施されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者、ご家族等の要望や状況に応じて、通院やふるさと訪問、お墓参りなどの支援が行われています。往診や入院中の洗濯支援なども実施されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご利用者等の希望により選定され、健康診断の結果などについてはホームにファイリングされています。受診結果については、電話や訪問時の説明により、ご家族と共有されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する意向については、早い段階で話し合いがもたれており、アセスメントシートに記録が残されています。また、状態の変化時にも意向の確認が行われています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応などご利用者のプライドに対する配慮が見受けられます。個人情報の漏洩防止などへの取り組みもうかがえます。個人情報保護に関するマニュアルについても整備されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、声かけを積極的に行いご利用者の意向を踏まえた対応を心掛けてあります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、ご利用者の状態に応じて、いろんな場面でスタッフと協働されているとのことです。食事中は、スタッフが同じ食事を同じテーブルで食し、支援が必要なご利用者対応も行われています。また、菜園で取れた野菜も取り入れているとのことです。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴について曜日が設定されていますが、希望に応じて毎日入浴も可能です。ご利用者の具体的な入浴支援方法が、介護計画に記載されているケースもあります。介助者の性別については、ご利用者やご家族の意向を踏まえた上で対応されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の生活歴や生活習慣、職業歴などをアセスメントシートに取りまとめ、その情報を活かした支援が展開されています。訪問時には、ご利用者が活けられたお花がきれいに飾られていました。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の状態や季節的な配慮のもと、食材の買い物などに、ご利用者と共に出かけられています。車椅子の利用はもちろん、自動車を活用した支援も行われています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されることなく、ご利用者の外出は、癖や傾向を把握し見守りにより対応されています。地域にもご利用者発見時の協力依頼が行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については、マニュアル及び緊急時の連絡網が整備されています。消防署指導による避難訓練も実施されており、夜間対応の訓練も計画されています。食料品等の備蓄は併設の施設に蓄えられています。	○	災害時の携行品の準備など様々な災害を想定した対策が求められます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量については個別に対応されています。食事の量や形態についての個別対応も見受けられます。嗜好についてもアセスメントシートに記録され活かされています。献立については管理栄養士のチェックが行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは全体的に明るく、季節の花やご利用者の作品などが飾られています。ご利用者が、いつでも楽しめるよう書籍なども置かれています。食事の準備の時から、食事の匂いが広がり、ご利用者の食欲に刺激を与えているようでした。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品には、特に制限を設けられておらず、ご家族と相談され馴染みのものを持ってきて頂くよう働きかけも行われているとのことです。時計、小物、家具、写真等の持込が確認でき、過去には仏壇の持ち込み事例もあったとのことです。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。